

第一〇二回 日本医史学会総会 演題目次

会長講演

ライデン大学医学部の学統……………

吉田 忠…………… 四五七

特別講演

東北大学医学部前史……………

山本 敏行…………… 四六〇

一般口演

1 占領期にて山梨県の看護政策に影響を与えたフアーラー軍医……………

佐藤 公美子…………… 四六三

2 十五年戦争と日本外科学会総会……………

助 昭三…………… 四六四

3 海軍航空医学……………

黒澤 嘉幸…………… 四六六

4 看護婦規則下における准看護婦の実態——免状授与・資格要件・看護料金に関して……………

平尾 真智子…………… 四六八

5 大正三年の東京における発疹チフスの大流行について……………

渡部 幹夫…………… 四七〇

6 本邦における神経心理学用語（「失語」など）の起源……………

濱中 淑彦…………… 四七三

7 二十世紀前半における京都・岩倉の「国際化」について（その一）……………

橋本 明…………… 四七四

8 戦前期日本における精神病院収容患者の増加……………

鈴木 晃仁…………… 四七六

9 弘前藩『御国日記』にみる癲狂について……………

岡田 靖雄…………… 四七八

10 O・テムキンの『てんかんの歴史』にみる時代区分について……………

小曾戸 明子…………… 四八〇

11 晩年の長谷川泰について……………

唐沢 信安…………… 四八三

12 司馬凌海——その名古屋時代（明治九〜十二年）……………

高橋 昭…………… 四八四

13 本邦篤志解剖第一号の執刀者と三田村日誌……………

宮下 舜一…………… 四八六

14 明治一七年から二一年までの医籍登録者について……………

樋口 輝雄…………… 四八八

15 日本における老年医学の源流……………

寺畑 喜朔…………… 四九〇

16 医の心の歴史的考察……………

杉田 暉道…………… 四九三

17	セメント質微細構造の概念の変遷について	西卷明彦	四九四
18	狩野文庫(東北大学)と蓬左文庫(名古屋市)の古い馬骨図について	松尾信一	四九六
19	幕末維新期の蘭方医関島良致の生き方	青木歳幸	四九八
20	西洋医学所医師添田玄春の長崎留学	深瀬泰且	五〇〇
21	尾張藩「御医師」の基礎的研究——一六〇三〜一八三六	岩下哲典	五〇三
22	「乳巖姓名録」に現れた乳癌手術患者の予後	松木明知	五〇四
23	華岡青洲自筆「丸散便覧序」	高橋均	五〇六
24	『重訂解体新書』所引の『物理小識』について	陶恵寧	五〇八
25	『蔵志』の解剖学的表現について——『阿蘭陀経絡筋脈臟腑図解』との比較	計良吉則	五二〇
26	日本におけるテリアカの受容	中村輝子・遠藤次郎	五二三
27	大伴家持が献上した薬方	後藤志朗	五二四
28	和気広虫について	半井英江	五二六
29	近世初期の病理学・治療法——『古寫本 鍼灸秘書』による考察	戸田静男・亀節子	五二八
30	故松原三郎博士遺品中の一文書——イディッシュ語で書かれた医史学史料	泉彪之助・正橋剛二	五三〇
31	ロイヤル・マーズデン病院の設立と発展	柳澤波香	五三三
32	ジョウジ・ワシントンの死について	藤倉一郎	五三四
33	古代インドの病理論書『マードヴァ・ニダーナ』について	山下勤	五三六
34	『脈経』二十四脈状の構造分析——遅数と疎疾の相違点	中川俊之	五三八
35	三陰交の明堂関係医書の主治病證と経脈病證	木場由衣登	五五〇
36	『扁鵲心書』の鍼灸について	北江龍也	五五三
37	針灸歌賦の研究——「玉龍歌」	宮川浩也	五五四
38	中国伝統医学と道教(第二十二回)「祝由」	吉元昭治	五五六
39	日本の鍼灸を輸入した中国民国時代鍼灸医学家——承淡安の業績について	宮川隆弘	五五八
40	中国医書にみられる糖尿病	魯紅梅	五五〇

41	『傷寒雜病論』における卓越した考注	郭	秀梅・加藤	久幸	五三
42	台湾故宮所蔵の日本関連古医籍		真柳	誠	五四
43	『蔵府和名放』について		竹内	尚	五四
44	梅園資料館所蔵の医学書の紹介		佐藤	裕	五八
45	三輪東朔に関する新知見		友部	和弘	五〇
46	知られざる医史学者・渡辺奎輔		町	泉寿郎	五三
47	足部に名前を残す二人のフランス人——Chopart と Listrac		小林	晶	五五
48	Colles 骨折の嚆矢——フランス人医師 Claude POUTEAU		清水	陽人	五五
49	ガスパール・ポーアン “Theatrum anatomicum” にて (2)				
	——“Anatomica corporis virilis et mviribris historia”(1597)との比較検討		月澤	美代子	五六
50	レアルド・コロンボ『解剖学』におけるヒトと動物		澤井	直	五〇
51	藤浪鑑教授とがんの疫学調査		青木	國雄	五三
52	網膜色素変性症患者の心理的側面に関する研究史		高林	雅子	五四
53	日露戦争時の傷病俘虜者の治療と看護状況		坪井	良子	五六
54	『明治四十三年五月 種痘名簿 吉備郡X村役場』について		石田	純郎	五六
55	早矢仕的とメデイカルNPO・両幸社		中西	淳朗	五〇
56	ハーバード大学図書館に残るヘボンの書簡		高安	伸子	五三
57	明治期ドイツ留学生の絵葉書		小田	皓二	五〇
58	スクリバ博士の外科学系譜の疑義の訂正		蒲原	宏	五八
59	泉屋家文書の外科資料蘭文断簡、外科問考について	相川忠臣・ハルメン	ボイクルス・中西	啓	五六
60	越中高岡見在江戸後期蘭語医事資料について		正橋	剛二	五〇
61	シーボルトと眼科医伊東昇迪		酒井	シヅ	五二
62	大英図書館で新たに発見された、ケンペルによる灸所鑑の翻訳草稿について		ヴォルフガング・ミヒェル		五四
63	公家・寺院日記から見た眼科の動向		奥沢	康正	五六

64	宗田文庫本『切紙東井御積談』について	小曾戸	洋	五八
65	導道が曲直瀬道三に授けた印可状	遠藤 次郎・中村 輝子	輝子	五〇
66	『煙羅子針灸法』について	上田 善信	信	五三
67	「灸鍼図」の考察	篠原 孝市	市	五四
68	『頓医抄』における脈法	吉岡 広記	記	五六
69	金瘡医と『金瘡療治鈔』	アンドリュウ・ゴープル	ブル	五八
70	三位法眼考	石原 力	力	六〇

誌上発表表

71	高野長英から大窪綱介宛の書翰	杉立 義一	一	六三
72	中日疫病史における伝染説提唱の先覚者——異有性と橋本伯寿	邵 沛	沛	六四

医史学文献目録 平成十一（一九九九）年 順天堂大学医史学研究室編 六六

《本号の表紙絵》

仙台藩医学校学頭渡部道可
と教諭佐々木中沢の印影

仙台藩医学校は文政五年（1822）蘭科を創設し、小関三英、佐々木中沢を教諭に招いたが、この先駆的試みも督学渡部道可の死去（文政七年）に及んで廃止され、短命に終わった。玄沢門下の中沢は文政五年六月仙台郊外の七北田において、当時まだ先例の少なかった女屍を解剖し、畠山仙江による解剖図をそえて、これを『存真図腋』（未刊、東北大学図書館蔵）として著した。表紙の印影は各々、同書への道可の序、および中沢の自序の末尾にあるものである。
(吉田 忠)